

## 第2回 射水市新斎場整備基本計画検討委員会 会議概要

### 1 日 時

平成28年11月22日(火)午後2時から午後4時まで

### 2 場 所

市役所501会議室

### 3 出席委員 敬称略

委員長 渡辺 幸一(富山県立大学工学部環境工学科教授)

副委員長 尾上 清逸(射水市地域振興会連合会)

委員 上田 秀永(射水青年会議所)

沖 和美(射水市婦人会)

門田 晋(社会福祉法人射水市社会福祉協議会)

白山 一男(沖塚原自治会)

舟木 康眞(射水市農業委員会)

### 4 欠席委員

なし

### 5 事務局

市民生活部環境課

### 6 配布資料

射水市新斎場整備基本計画(案)

射水市新斎場整備基本計画(案)(抜粋)

配置計画の例・外観イメージの例

### 7 議 題

#### (1) 射水市新斎場整備基本計画(案)(抜粋)について

射水市新斎場整備基本計画(案)について抜粋資料を元に事務局から説明し、質疑応答、意見交換を行った。

基本計画(案)(抜粋)の項目

- 1 射水市斎場の概要と火葬の状況
- 2 施設整備の方向性
- 3 建設候補地
- 4 必要火葬炉数
- 5 新斎場の配置・平面計画
- 6 火葬炉設備の考え方
- 7 事業手法とスケジュール

会議で出された意見等について、次回会議までに事務局で整理し、計画案への反映や修正などを行うこととした。

(2) 次回会議の日程について

第3回会議は12月22日(木)もしくは26日(月)で調整することとした。

## 8 質疑応答・意見交換の概要

**委員** 必要火葬炉数について、必要に応じて1基の予備スペースとあるのは、1日に12件を超える火葬があった場合に使用する炉なのか、あるいは故障した場合に使用する炉という意味なのか。

**事務局** 炉の設置は6基と考えており、何等かの理由で必要となった場合のスペースだけを設けておくということである。

**委員** 必要炉数の算出に当たり、高岡市牧野地区の件数も含めているが、新斎場に牧野地区からの火葬を受け入れる予定であることについては、高岡市と協議済なのか。

**事務局** 現時点で正式な協議は行っていないが、事務レベルでは、これまでどおり射水市の斎場で受け入れることについて話をしている。

牧野地区からの火葬の受入れに関しては、市町村合併以前には高岡市から負担金をいただいていたが、合併時にその負担金を廃止するに当たり、高岡市との協議の結果、40,500円で受け入れることとなった。また、その火葬料金と個人負担の差額は高岡市が負担している。その仕組みを今後どうしていくかという検討も必要になってくるが、現時点でそこまでの協議は行っていない。

**委員** 必要炉数の算出に当たって、牧野地区を除いて射水市分だけで推計しても必要炉数は変わらないと理解して良いのか。

**事務局** 資料に記載している推計は、すべて牧野地区の火葬件数を含めて行っているので射水市分だけで推計すると、件数は変わってくる。

ただし、牧野地区に限らず市外在住者でも射水市斎場で火葬することは可能であるので、そうしたことも加味して火葬件数の実績を元に推計を行っている。

**委員** 最大値をみて過大に見積もっているのか、あるいは安全をみて係数を掛けているのかといったことが問題になる。過大に計算すると投資し過ぎではないのかという指摘を受けることもある。

火葬を受け入れることには何の問題もなく、射水市分だけで計算しても牧野地区を含めて計算しても結果は変わらず、過大投資にはならないということであれば良い。

**事務局** 新斎場を整備した際に火葬料金をいくらにするかについては今後の検討になるものの、牧野地区からの火葬料金をいくらにするのか、あるいは建設時に負担金をもらって火葬料金を割り引くことにするのか、ご指摘のとおりそうした協議は必要になってくると思う。

**委員** 高岡市でも高岡斎場を整備しており、牧野地区の個人負担額と射水市斎場の火葬料金との差額を高岡市が負担することについて、きちんと協議をしておかないと、仮に後からになって高岡市が負担できないという話になると、問題になる。

**委員** 必要炉数の計算について問題はないと思うが、今ほどの話についてはどういう形で決着がつくにしてもきちんと整理しておいた方がよい。

**事務局** 施設整備の前提条件であるので、もう一度整理させていただく。

**委員長** 現斎場の5基から1基増やすことに繋がっていく話なので重要なポイントかと思う。

**委員** 迷惑施設という視点で良いかどうか分からないが、新しい施設を作ることは非常に苦勞するものである。地域の人たちの迷惑施設としての認識を変えていくための努力がないと、いつまでたっても新しい施設が動き始めてもなお苦勞することになる。

新斎場の建設候補地周辺を通ると反対看板が増えている。今後落ち着いていくのであれば良いが、根強く反対感情が残っていくとすれば、新しい施設が市にとっても地元にとってもプラスになるという視点を訴えていかなければなかなか納得してもらえない。そして市とのパイプ役にもなり得る理解者を増やしていかなければ、この迷惑施設というものは、なかなか市民権を得ていけない。

やはり地元の人たちにとってメリットになる空間の検討をすることも必要ではないかと思う。

**委員** その点については、地元からの要望事項も出されていることだろうし、市の方でしっかりと対応していただきたいと思います。

**事務局** 市として、地域の要望に応えていくということは必要だと思っている。一方で、風評被害であるとか、環境面の問題であるとか、あるいは施設の外観であるとか、そうしたことに對して、まだきちんと説明できていない状況でもあるので、それらの点も含めて、地元の方々と協議をしたいと思っている。

**委員** 反対看板の中には通学路にこういう施設を建てるなというものも見受けられるが、そういう意味では、迷惑施設というのは勝手に作られた概念で、市民感情を煽るような言動も含めて出てくるような気がする。それを払拭していくための市としての対応策をきちんとしていかなければいけない。

**委員** 建設場所の考え方の中に、「ある程度の住民の同意が得られることが必要とされる。」とあるが、「ある程度」とはどれくらいを表しているのか。

**事務局** 数字的な話ではない。沖塚原地区を候補地とする以前に、他に候補地とした場所もあったが、説明会を開催しても大半の方が反対という状況で、強引に斎場の建設を進めることはできないと判断した経緯がある。少なくとも過半数、あるいはそれ以上の合意がなければなかなか計画を前に進めることは難しいと思っている。

**委員** 新斎場の配置・平面計画の中で、待合室へのキッズコーナーや授乳室の設置について記述してあり、今新しい施設を建てる場合、公共、民間を問わず、女性や子どもが利用する施設には必ずと言っていいほど設置されている。しかし、資料の配置計画の例にはそれが見当たらないが、その点についてはどのように考えている

か。

**事務局** 当然、必要な機能であると考えており、今回の配置計画の例には記載していないが、設置するものとして計画する。

**委員** 火葬炉設備の考え方の中で、ばい煙、悪臭、騒音等については当然十分に配慮されるものと個人的には思っているが、計画に反対している人たちの中には、施設が新しいうちは大丈夫だが、施設が古くなると周辺環境に影響が出てくるという意見を言う人もいるので、そのあたりはしっかりと説明できるようにしておいてほしい。

**事務局** 火葬炉は、毎年定期検査を行い、古くなるまで放置することはない。検査結果にあわせて必要な補修等を行うので、機能としては維持していくものと考えていただきたい。

**委員長** 地元で反対される方々には、このあたりのことを一番心配されるのではないかと思う。

環境影響評価で問題ないという説明があったが、どのようなシミュレーションを行ったのか。

**事務局** 排ガス基準に基づき、年間の火葬件数の最大値に対し、排ガスとして出たものが大気上でどれくらい拡散するか、どれくらい変化があるかのシミュレーションを行った。したがって、排ガスの基準を守っていれば、ほとんど現状と変わらないという結果になっている。

**委員長** シミュレーションと観測はまず合わない。特にシミュレーションが難しいのは沈着がどの程度あるかということもある。

**事務局** それについては、風向や拡散濃度なども考慮し、最大着地濃度の地点でも環境基準よりも低いという結果になっている。

**委員長** 資料にある排気筒出口の排ガス濃度は非常に高い。このあたり難しい問題で具体例を示した方が良いのかなという感じもしている。

**委員** 比較は難しいと思うが、現在の斎場と新しい斎場と比較するとこれだけ差があって皆さんには迷惑をかけないというようなデータは取れるのか。

**事務局** ダイオキシン類に関しては、既存の施設に比べると、新しい施設は5分の1という基準が厚生省から指針として出ている。実際に測定すると、それ以上に低い結果になる。

**委員** 他市の斎場の建設時も、そのような低いデータにはなっているのか。

**事務局** 低いデータが出ている。

**委員** そのあたりをきちんとアピールしていくことが大事ではないか。他市の斎場の実績も説明しながら、新しい斎場はもっと低い値になるというような説得力のある説明をしていくべきである。

**事務局** ご理解をいただけていない方々にデータだけをお見せしても納得はされないと思っており、そのあたりの説明の仕方も含めてまた委員長にはご相談をさせて

いただきたい。

**委員** 新斎場の配置・平面計画の中で、車寄せについて、雨天時の考慮については記述してあるが、1月の火葬件数が多いということなので、雪対策についても触れておくべきだと思う。

現在の配置計画の例でみると東向きになっており、冬場は北東、北西の風が多いので玄関口が雪溜りになる可能性がある。そういうことも考慮すべきである。

駐車場の消雪設備はどのように考えているのか。

**事務局** 現段階ではまだ結論は出していない。

**委員** 仮に井戸を掘って消雪をするとすると、塩水対策も問題になる。また、霊柩車やマイクロバスは庇の下に来られるが、一般車両は駐車場から玄関まで回廊なりを歩いて歩かなければならないので、そういう面での利用者の利便性にも配慮する必要がある。

**委員** 広い駐車スペースを設けると夜間に不法駐車が増えることもあるので、夜間の施設管理ということも考えなければならない。夜間の照明も含めて検討課題の一つではないかと思う。

**事務局** 家族葬に対応した小規模な式場の設置について説明させていただくと、先日、市内の葬儀業者との意見交換の中では、既に全体で10件程度の葬儀に対応できるというお話もあり、市としては新斎場に式場は設けない方向で考えている。

そうであれば夜間の使用がないため、例えば門扉を設置することも一つの方法かと思う。

**委員** 福祉の観点で言えば、全国で年間約3万人が孤独死しているとも言われている。そういう方々のことを考えると、今回の斎場整備の問題からは外れるかもしれないが、夜間の受付などどこかに窓口は必要ではないかと思う。

**委員** 今の話に関連して、孤独死や単身の方など葬送儀礼が伴わない方がおられたり、あるいは親族が一人ないし二人という場合もあったりするので、霊安室やそういう親族の方のための部屋のことも考慮に入れた方が良いと思う。

**委員** 灯油を使用燃料としつつ、地球温暖化対策に関する記述が見当たらないが、施設整備に当たって考慮はしないのか。

**事務局** 現在の施設から新しい施設にすることによって、CO<sub>2</sub>の削減が期待できるという観点では、地球温暖化対策に資するものであるかと思う。

**委員** 現在の燃焼設備と新しい燃焼設備を比較するとこれだけの差があり、地球温暖化対策にも寄与するという点を基本計画のどこかに記述した方が良いのではないかと思う。

**委員長** 新斎場ができることで、ある意味でCO<sub>2</sub>対策に貢献するという点であればプラスイメージになるかもしれない。

ちなみに排ガス濃度そのものは高いものが出てくる。例えば硫黄酸化物では大気中に0.003ppmあれば高い方で、窒素酸化物では、0.025ppmあれば高い方である。

もちろん、目標値としている値は排気筒出口の排ガス濃度なので比較するものではないが、大気中の値の話と基準値の話と混同すると分かりにくくなる。

**事務局** その点については注意して説明するよう心掛ける。もう一点、ペット葬についてご意見をいただきたいが、民間業者がおられることもあり、またもちろん、ペットを飼っている人にとっては家族同様なのだと思うが、人とペットとは少し違うと考える人もいるだろうなと思っており、市としては設置しない方向で考えている。

**委員** 現状、例えば道路で死んでしまった動物はどのように処理されているのか。

**事務局** 市の焼却施設のクリーンピア射水において廃棄物として処理している。

**委員** ペットも火葬するとなると、なおのこと地域住民は賛成しないのではないかと。

**委員** ペットを飼っている人は良いけれど、そうでない人からするとなかなか賛同できないのではないかと。

**委員** 高岡斎場にはあるのか。

**事務局** 設置されていない。富山県内の公営斎場で設置しているところはない。<sup>1</sup>

**委員** 射水市にだけ設置されると、なおさら問題になると思う。

**委員** 敢えて設置する必要性は低いと思う。

**委員** 先ほどの意見のようにペットも火葬するとなると、余計に地域の反対があるように思うので設置しない方が良いのではないかと。

**事務局** 待合室を6室設ける計画になっているが、現在の葬儀の習慣から変わってくると思っている。現在は、火葬中は葬儀式場に帰って食事なりをして、火葬が終われば収骨に行くという流れになっているが、新しい斎場になると、火葬中は斎場で待つことになる。

この点については、先日の葬儀業者の話でもそれで構わないということであったので、問題はないのかなと思っている。多くの方は式場に戻らなくなるだろうと思っている。

**委員** 斎場で簡易な食事が伴うようになるので、それを考慮する必要が出てくる。

**委員** 待合室は無料になるのか。

**事務局** 待合室は有料で、待合ロビーは無料になると思っている。どのような料金体系になるかは今後の検討になる。

**事務局** こちらの思いでは、斎場に來られるのは家族と近親者が主だろうと思っており、待合室に入られる人数もそれほど多い人数にはならないのではないかと思っているが、そのあたりが今の時点ではよく分からない部分である。地区によっても違ってくると思う。

**委員** 現状で言うと小杉から下村の方では、七日(の御膳)は近所の人も出席している。自治会単位で全員になるのか半分になるのか、その時によるがお手伝いしているところは多いと思う。ただし、収骨の時は親族だけで、そういう人たちは行

---

<sup>1</sup> 実際には、富山県内では、氷見市斎場と砺波市斎場でペットの火葬を受け付けており、動物炉としては氷見市斎場に1基設置されている。当該説明については、後日訂正。

かない。これが斎場の待合室で、ということになってくると、どうなるかは分からない。

待合室でお寺さんにお経を上げてもらうこともできるのか。

**事務局** 待合室はあくまで火葬中の待ち時間に利用してもらうもので、法要は行えないように考えている。

**委員** そうであれば、結果的に式場に戻ることになるだろうから、今と一緒にではないかと思う。

**委員** 火葬時間は現在より短くなるのか。

**事務局** 火葬の時間だけで言うと、75分から55分くらいになる。現在より20分ほど短くなる。

**事務局** 機能面で何か足りないことなどあれば、ぜひご意見をいただきたい。

**委員** やはり地域によって葬儀の流れが異なり、都市部ではかなり簡素化されていたり、一方では七日の御膳まであったりするので、そのあたりをどう考えていくかということは重要だと思う。

**事務局** 他市の事例では、待合スペースに図書コーナーやマッサージチェアがあったり、あるいは高級な絵画などの美術品を展示したりしている斎場もある。

**委員** 今後の葬儀習慣の変化にどう対応していけるのかということも考えていく必要があるだろう。

**委員** 核家族化の流れなども考えると、今後ますます葬儀の規模の縮小化や簡素化が進むのではないか。

**委員** 先ほど事務局の話にあった中で、待合いの時間に利用できる図書スペースがあったら良いと思う。

**事務局** 市が保有していて飾られていないような絵画などを活用する方法もあると思うので、そういうことも含めて検討していきたい。